

■高校野球のケーススタディー（第13回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 内野内に位置した外野手が飛球を捕球した場合でもインフィールドフライであるの・・・？

本年9月の練習試合で実際に生じたプレイです。

同点で迎えた9回裏1アウト満塁。内野手は前進守備。外野手も、内野に近く浅めの守備位置をとっていた。打球は、通常の2塁手の守備位置のやや後方への高いフライとなり、右翼手が内野内まで前進し捕球体勢に入ったところで、球審がインフィールドフライを宣告した。ところが、右翼手は打球を落球。各走者は、インフィールドフライを認識しそれぞれハーフウェイ付近にいたため、右翼手は本塁へ送球。捕球した捕手は、続けて3塁へ送球した。また、打者走者は1塁ベースを回ったところで1塁走者を追い越していた。

さて、このプレイ、判定はどうなるのか？ダブルプレイとなれば同点のまま延長へ入るところだが・・・

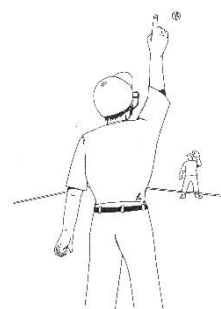
インフィールドフライは、原則として球審がダイヤモンド内に進んで発声とゼスチャーで宣告することとされていますが、各塁審も球審に同調した動きを行います。（塁審が宣告する場合もあります。）※高校野球審判の手引き（一部抜粋）

これは、打者走者がアウトになったことを各審判員で共有するほか、走者や野手に対してその事実を伝えるためです。走者は、占有していた塁にとどまってもアウトにならないことが分かりますし、野手も次のプレイに備えることができます。

この場面でも、球審がインフィールドフライを宣告した後、すべての審判員が認識し同調することで、すべての走者と守備側の野手には、インフィールドフライで打者がアウトになったことを周知していました。

なお、このケースでは、浅い守備位置をとっていた右翼手が内野内で捕球体勢に入った際、球審がインフィールドフライを宣告していますが、守備の対象が内野手ではなく、外野手の場合でもインフィールドフライが適用されるのかという点について確認しておきましょう。

ここで、公認野球規則での「インフィールドフライ」の一部を紹介します。（関係箇所のみ抜粋）



【定義 40】

インフィールドフライとは、0アウト又は1アウトで、走者が1・2塁、1・2・3塁にあるとき、打者が打った飛球（ライナーおよびバントを企てて飛球となったものを除く）で、内野手が普通の守備行為をすれば捕球できるものをいう。この場合、投手、捕手および外野手が、内野で前記の飛球に対して守備したときは、内野手と同様に扱う。

【原注】

飛球が外野手によって処理されても、それは内野手によって容易に捕球されるはずだったと審判員が判断すればインフィールドフライとすべきである。

このように、前進してきた外野手が、内野手が普通の守備行為をすれば捕れるはずであった飛球を内野で捕ったときもインフィールドフライが宣告されるのです。

インフィールドフライは、野手が意図的に落球してダブルプレイを成立させることを阻止する目的で規定されていることから考えると、外野手であっても内野内に位置しておれば適用の対象になることは理解できると思います。

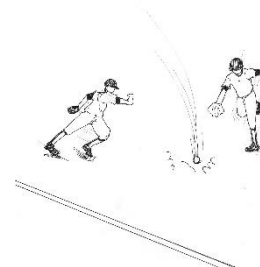
次に、インフィールドフライが宣告されたことにより、その後のプレイの判定がどのようになったのか確認しておきましょう。

規則 5.09(a)(5)では、「インフィールドフライが宣告された場合、打者はアウトになる」と規定されています。

したがって、球審がインフィールドフライを宣告した時点で、打者走者はすでにアウトになっていますので、フォースの状態ではなくなり、各塁の走者は進塁の義務を果たす必要はありません。

守備側はフォースアウトを狙い、右翼手⇒捕手⇒3塁手と転送していますが、各走者は元の塁にとどまっても占有する権利があるため、アウトにはならないのです。

また、走り続けていた打者走者は、1塁ベースを越えたところで1塁走者を追い越していたようですが、インフィールドフライですでにアウトになっており、追い越しによるアウトでないことは明らかですので、最終的にこのケースは、打者のみがアウトになり2アウト満塁で試合を再開することになりました。



【参考】

本年、阪神甲子園球場で開催された高校野球交流試合の「智弁学園（奈良）対中京大中京（愛知）戦」で、野手がインフィールドフライの飛球を落球し決勝点につながったケースがありましたので、紹介しておきましょう。

延長 10 回裏、中京大中京の攻撃で0アウト満塁。打者が2塁方向へ内野フライを打ちました。球審は、インフィールドフライを宣告し、打者はアウトになりました。

ところが、2塁手がこの打球を落球。ボールが転がる間に3塁走者が生還し、中京大中京のサヨナラ勝ちとなりました。

このプレイに関しては、後に「インフィールドフライが宣告された時点でボールデッドになっているのでは・・・？」という問い合わせが多かったとの報道がされていました。

公認野球規則の定義 40 には、「インフィールドフライが宣告されてもボールインプレイであるから、走者は離塁しても進塁してもよいが、その飛球が捕らえられれば、リタッチの義務が生じる」とあります。したがって、この試合では2塁手が落球したことにより、インプレイの状態ですら3塁走者がサヨナラのホームを踏むことになったのです。3塁走者がインフィールドフライのルールをよく理解しており、落球した時点で躊躇せずスタートを切った結果といえるでしょう。

表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
表題デザイン：飛田 紀香さん（3年）坂田 朋葉さん（3年）
イラスト：桂 楓杏さん（2年）日下部 心咲さん（2年）